

博物館

No. 96

徳島県立博物館

Museum News

ニュース

四国霊場の弘法大師坐像



左：焼山寺蔵、右：熊谷寺蔵（ともに徳島県指定文化財）

古いお大師像があるんだね

四国遍路は、弘法大師空海（774-835）ゆかりとされる札所 88 か所を回る巡礼です。そのため、大師信仰が遍路の中心にあります。

ここに掲載したのは、徳島県内の札所である焼山寺（12 番）、熊谷寺（8 番）の大師坐像です。焼山寺の像は、応永 7 年（1400）に彩色が施されており、その少し前につくられたと考えられます。一方の熊谷寺の像は、永享 3 年（1431）、京都でつくられたものです。四国霊場には、中世にまで遡る大師像の彫刻作品は、あまり残っていないので貴重です。

これらを含む多彩な文化財等を、「空海の足音 四国へんろ展」徳島編において紹介します。（歴史担当：長谷川賢二）



トコジラミ

— 復活の吸血虫 —

山田 量崇

トコジラミとは？

トコジラミ *Cimex lectularius* (図1) という虫をご存じですか？ “シラミ” という名が付くため、ケジラミやアタマジラミなどシラミ目の昆虫と間違われやすいですが、実はカメムシの仲間です。“南京虫” とも言い、人によってはこちらの方がなじみ深いかも知れません。体は非常に平たく翅が退化しており、一見すると他のカメムシと様相が異なりますが、刺激を与えればかなりの悪臭を放つため、立派なカメムシの仲間であることがわかります。トコジラミの餌は温血動物の血液です。人間以外に、コウモリや鳥などの皮膚にストロー状の口吻を刺し、血液を吸って生きています。トコジラミによる人体への主な被害は刺された後の痒みです。刺された時に痛みは感じないものの、吸血の際に唾液が注入されることによってアレルギー反応を起こし腫れて痒くなります。私の経験では、刺された後に全く痒くならなかったので個人差はあるようです。

トコジラミの仲間は世界中に70種以上が知られています。なかでも、人と関わりの深い種はトコジラミとネツタイトコジラミ *C. hemipterus* で、

世界各国の都市部で古くから一般的な衛生害虫として知られてきました。

ふしぎな生態

トコジラミは夜行性で、昼間は壁や床、畳のすき間、柱の裂け目、ベッドの中に群れを作って潜んでいます。夜間に出てきて人体の露出した部分をねらって吸血します。一度の吸血に10分以上かかることがあり、口吻を刺し変えて吸血することもあるため、刺し痕が2カ所以上になることもしばしばです。体重の何倍もの血液を吸うため、空腹時には扁平だった腹部が1.5倍以上に伸びます。成虫は非常に飢餓に強く、絶食状態で2ヵ月以上も生存することが知られています。

トコジラミ類の交尾は少し変わっています。多くの昆虫では、雄が雌の腹部末端にある交尾器を通して精子を受け渡しますが、トコジラミ類では、雄が鋭い針のような把握器(図3B)を雌の体に突き刺して穴を開けてから精子を注入します(図2)。注入された精子は、雌の血液の中を泳いで卵巣に辿り着きます。雌の腹部の腹面右側や背面側には、裂け目のような形態が見られますが、そ

図1 ヒトの血を吸うトコジラミ *Cimex lectularius*

図2 トコジラミ類の交尾

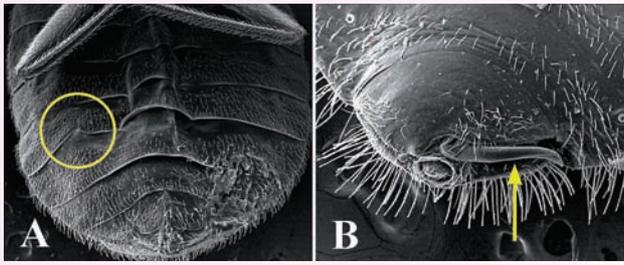


図3 トコジラミの雌の腹部にある裂け目 (A、丸印) と雄の把握器 (B、矢印)

こから雄の把握器が挿入されます (図3A)。

また、最近の研究によって、トコジラミは細胞内にボルバキアという共生細菌を宿さなければ、正常な発育や生殖ができないことが明らかにされました。このボルバキアは宿主にビタミンB類という必須栄養素を与えているようです (細川、2011)。

世界のトコジラミ

トコジラミの仲間の大半がアフリカや東南アジア、中南米などの熱帯や亜熱帯地域に分布するいっぽう、前述のトコジラミを含む一部の種が温帯から冷温帯にも生息しています。日本では、これまでにトコジラミ、コウモリトコジラミ *C. japonicus*、ツバメトコジラミ *Oeciacus hirundinis* (図4D)の3種が記録されていますが、南西諸島からネッタイトコジラミとおぼしき種の報告もなされています。

大半の種が洞窟内でコウモリ類に寄生し (図4A-C)、残りはツバメやハトなどの鳥類を利用します (図4D)。人間や家畜動物を利用するのはごくわずかな種しか知られていません。

復活したトコジラミ

トコジラミはさまざまな物資に身を潜めることができたため、古い時代からそれらとともに人為的に世界各地へ運ばれていきました。田中芳男の「南京虫又床虱」(1897年)によると、日本へは文久年間にオランダから古船を買い付けた際に侵入したようですが、被害が問題視されはじめたのは明治時代以降で、第二次世界大戦の後までごくありふれた衛生害虫として蔓延していました。その後、強力な殺虫剤の開発や生活環境の改善などにより、1970年頃までにはほとんど見られなく

なりました。しかし、欧米各国では2000年頃から、日本では2007年頃から再び被害が増え始めたのです (トコジラミ研究会、2013)。国境を越えた人々の往来が活発になったこと、都市部へ人口が密集したこと、地球温暖化などが主な理由に挙げられていますが、とくに脅威なのは、殺虫剤に対して抵抗力をもったトコジラミが出現していることです (平尾、2010)。

かつて衛生害虫として猛威をふるったトコジラミですが、一時は日本から姿を消したかのように思われました。しかし、再びその脅威にさらされつつあります。幸い、徳島県ではまだ問題になっていないようですが、現代の日常を考えると安心はできません。早期に対応するためにも、まずは知識の普及・共有に努めることが肝要です。

(動物担当)

引用文献

- 平尾素一 (2010) 衛生動物, 61: 211-221.
- 細川貴弘 (2011) 生物科学, 63 (1): 17-23.
- トコジラミ研究会 (2013) 『トコジラミ読本』 日本環境衛生センター.

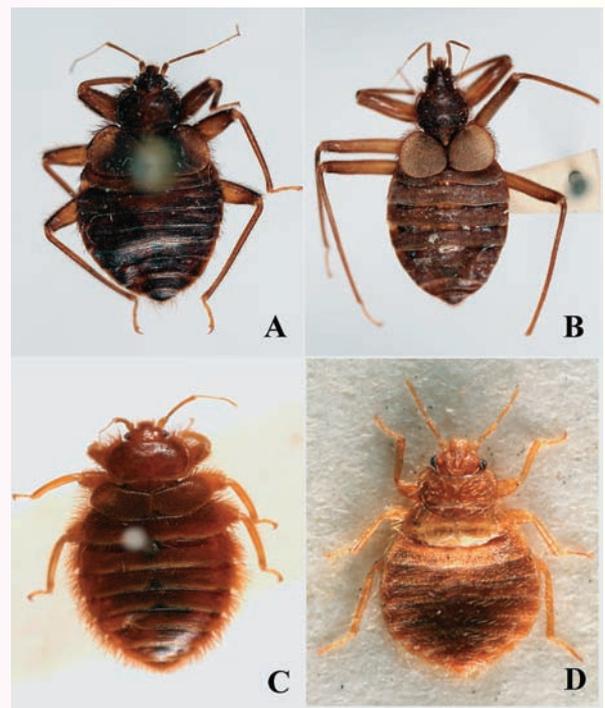


図4 世界のトコジラミ類

- A, *Bucimex chilensis* (チリ原産、コウモリに寄生)
- B, *Primicimex cavernis* (北・中央米原産、コウモリに寄生)
- C, *Cacodmus villosus* (アフリカ原産、コウモリに寄生)
- D, ツバメトコジラミ *Oeciacus hirundinis* (ヨーロッパ原産、ツバメ類などに寄生)

空海の足音



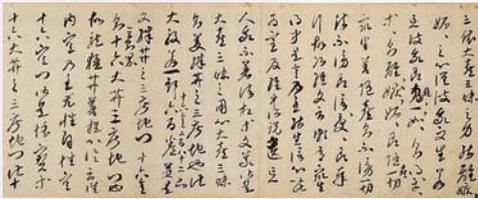
四国へんろ展

〔徳島編〕

10/25 土
11/30 日

会場 徳島県立博物館
企画展示室ほか

2014（平成26）年、弘法大師空海が四国霊場を開創したといわれる弘仁6（815）年から数えて1200年の節目を迎えました。これを記念し、国宝、国指定重要文化財あわせて20余件を含む多数の文化財、そして、徳島県出身の写真家三好和義氏の撮影による四国霊場の写真により、四国遍路の歴史と文化を紹介します。



1 国宝 空海筆 金剛般若経開題残巻（部分）
奈良国立博物館蔵（森村欣司氏撮影）



2 重要文化財 板彫真言八祖像のうち空海
高知・金剛頂寺蔵



3 不動明王坐像 徳島・太龍寺蔵

休館日：10月27日(月)、11月4日(火)、10日(月)、17日(月)、25日(火)

主催：四国へんろ展徳島実行委員会、徳島県教育委員会、徳島新聞社、
四国へんろ展開催協議会

観覧料：前売1,000円（当日 一般1,300円、65歳以上1,100円）

- ・高校生以下、障がい者とその介助者1名は無料
- ・学校教育による利用の場合、引率者は無料
- ・20名以上の団体は前売料金

※前売券販売所：徳島新聞社地域振興部、徳島新聞各販売店、小山助学館本店、
エアトラベル徳島、徳島県内各札所寺院

関連行事

■ へんろ学入門セミナー（参加無料、各回ごとに事前申込が必要です）

◆第1回：11月1日(土) 午後1時30分～3時

真鍋俊昭氏（総合監修者、四国大学教授）「四国遍路と美術」

◆第2回：11月8日(土) 午後1時30分～3時

町田 哲氏（鳴門教育大学准教授）「近世の札所寺院と四国遍路」

須藤茂樹氏（四国大学准教授）「絵画・彫刻に見るお大師さんのおすがた」

■ 遍路道☆花ウォーキング【川島・阿波】（参加無料、事前申込が必要です）

10月26日(日) 午後1時～4時

■ 地蔵峠【眉山】の遍路道を歩こう（参加無料、事前申込が必要です）

11月23日(日) 午後1時～4時

■ 展示解説（観覧券が必要です）

10月26日(日)、11月2日(日)、3日(月・祝)、9日(日)、16日(日)、

23日(日)、24日(月・休) 午後1時30分～2時30分

展示構成

第1幕 空海と弘法大師信仰

第2幕 道行く聖と四国遍路の形成

第3幕 四国遍路の定着と展開

第4幕 四国遍路の周縁

第5幕 信仰と美 一札所の文化財―

第6幕 四国遍路のいま ―三好和義が撮る「遍路の旅」―

祖谷のジャガイモ

博物館では、平成26年度から祖谷地方の在来作物というテーマで調査を始めました。7月15日～18日にかけての1回目の調査で、祖谷在住の方々から、ちょうど収穫の時期であったジャガイモについての話を聞いたので紹介します。

祖谷地方でジャガイモの栽培が始まったのは、万延元年（1860）頃とされています。古くから伝わるジャガイモが現在も残っており、一般的なジャガイモに比べて小さく、煮くずれしにくく、田楽やおでんなどの調理法に適している特徴があるといわれています。1997年度から商品化への取り組みを開始し、「源平いも」の名で商品化されています。

ただ、祖谷の人たちは、さまざまな品種のジャガイモをこれまでいろいろと試しつつ、祖谷に特徴的なジャガイモを、現在まで作り続けてきたようです。

図1は、東祖谷山中上で掘りあげてもらったジャガイモです。作り主は、左の赤いイモを「アカイモ」、右の白いイモを「ホドイモ」と呼んでいます。アカイモは、掘りあげて保存しておき、冬を越した頃になると甘みが出ておいしくなるといいます。ホドイモの方は掘ってすぐ食べてもおいしいそうです。また、アカイモとホドイモが混じるといけないので、離れた場所で栽培をしています。

図2は、西祖谷山村重末で収穫をしていたジャガイモです。今年は東祖谷からもらってきた「コフキイモ」というジャガイモを作ったそうです。こちらで昔から作っていたジャガイモは「トサホド」と呼ぶジャガイモで、花が咲かず、収穫してから4月まで保存して置いても、イモにシワがよらない特徴があるそうです。ただ、栽培中に土の中でイモが腐りやすいという欠点があり、種芋は残しているけれども（図3）、今年は植えなかったそうです。

その他、東祖谷栗枝渡では、「オクイモ」と呼ぶ、イモが小さくねっとりとしたジャガイモと、「アカイモ」と呼ぶ、収穫したすぐはエグ味があるが、

保存しておくとも甘みが出てくるというジャガイモを作っているという事でした。

いろいろ話を聞いてみると、祖谷の人たちは、イモが小さくて固く、煮くずれしにくい、収穫してから長期保存が利くというタイプのジャガイモを、祖谷に適したジャガイモとして栽培してきたようです。

今後調査をすすめ、祖谷に特徴的な作物とそこにつまった人々の知恵についてまとめたいと考えています。（民俗担当：庄武憲子）

参考文献：井内美佐・小川純一 2000「徳島県在来パレイショの系統分類と種苗生産」『徳島農試研報』(36)：7～17



図1 東祖谷山中上 左：アカイモ、右：ホドイモ



図2 西祖谷山村重末 コフキイモ



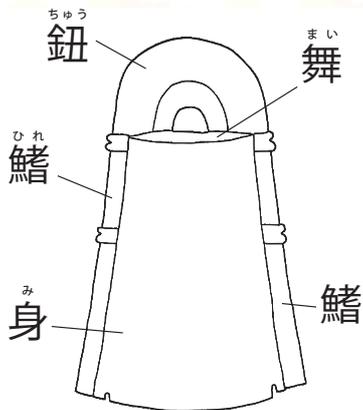
図3 西祖谷山村重末 種芋として保存しているトサホド

鈕にシカの描かれた銅鐸

伝榎瀬銅鐸（複製品）

徳島県では約50個の銅鐸が発見されています。全国で約500個の銅鐸が出土しているのので、その1割が徳島県で見つかることとなります。徳島は島根、兵庫、滋賀、愛知、和歌山、大阪などとともに銅鐸の多く発見される地域です。

伝榎瀬銅鐸は、徳島県内で、ただひとつ絵画が描かれている銅鐸です。明治初年に板野郡川内村（徳島市川内町）の榎瀬より出土したと伝えられています。吉野川河口近くの沖積地のど真ん中から、弥生時代の銅鐸が出土することについて、否定的な見解を述べる人もいます。現在、辰馬考古資料館の所蔵となっています。博物館は、文化の森の新館オープンにあわせて複製品をつくり、常設展で展示しています。



第1図 銅鐸の部分名称

この銅鐸は高さ46.1cmで、重さは4.46kgあります。外縁付鈕式で、身の文様は流水文ですが、中央の区画文様が両面でそれぞれ異なります。片方は斜格子文で、もう一方は連続渦巻文となっています。鰭から鈕の外縁にかけては、片面は鋸歯文で飾られ、他面はワラビ手文、連続渦巻文が描かれています。

シカの絵はワラビ手文、連続渦巻文が描かれた面の鈕の内側に左右対称に1匹ずつが配置されています。向かって左側はあまり鮮明でありませ



図2 鈕の片面に描かれた渦巻き文とシカ

ん。右側のシカを見ると、V字型の頭を内側に向け細長いなすび型の胴体に、前足、後ろ足と2本ずつつますぐに付けられています。

シカは銅鐸に描かれる画材としては最も多く、線画でなすび型の胴体を描いたものが大部分です。狩猟の対象として描かれる場合もありますが、単独であるいは複数のシカを組み合わせて描かれる場合が多くみられます。弥生時代には、鹿角の成長と稲の生長を重ね合わせ、シカを土地の精霊として神聖視して、銅鐸や土器に描かれる画材として多く取り上げたのだと考えられています。

（館長 高島芳弘）



図3 伝榎瀬銅鐸の表裏



海岸で土器が拾えるって ほんとうですか!?

浜辺を歩いて漂着物を探し集めることを、ビーチコーミングと言います。ビーチコーミングをしていると、意外なものを拾うことが時々ありますが、徳島の海岸では、なんと古い時代の土器片や陶磁器片などが拾えることがあります。中には、とても大きくて、もともとの形がよくわかるものもあります(図1)。

徳島県で土器片などが拾える場所は、いくつかあります。有名なところでは徳島市の小松海岸や阿南市の北の脇海岸などが挙げられますが、特に北の脇海岸では、西崎聖二郎さんが、とても詳しく調査を行っています。それによると、この海岸では、土器片(縄文土器や弥生土器、土師器の可能性がありますが)、須恵器片、瓦器片、陶器片、そして磁器片などが拾えるそうです(図2)。その時代も古いものから、ごく最近のものまで、いろいろなものが流れ着くとされています。そんな身近なところに、何千年も前の人が作ったものが落ちているなんて、とても不思議な感じがしますよね。

でも、いったいどうして浜辺に土器片などがあるのでしょうか?これについては、①海岸の堤防工事のために、よそから運ばれてきた土砂に混ざっていた。②海岸で使われて捨てられた。③海岸の近くを流れる川の上流の遺跡から、川の流れ

や津波の影響で運ばれてきたなど、様々な理由が考えられています。

また、土器片が拾えるのは、じつは海岸ばかりではありません。安藤拓馬さんによると、吉野川の川岸でも土器片や陶器片が拾えるのだそうです(図3)。思わぬところでみつかるものですね。皆さんも海や川に落ちている土器片や陶磁器片に注目してみてください。

(植物担当: 茨木靖・考古担当: 岡本治代)



図3 吉野川河口漂着の土器・陶磁器片(安藤拓馬氏採集・撮影)

もっと詳しく知りたい人は、
西崎聖二郎・高島芳弘。2014。徳島県阿南市北の脇海岸に漂着した土器片・陶器片について。徳島県立博物館研究報告(24): 35-44。
Insolation Room. <http://jailbird.sakura.ne.jp/blog/>



図1 徳島市小松海岸漂着の弥生中期末の長頸壺(田上浩久氏採集)



図2 阿南市北の脇海岸漂着の土器片など(西崎聖二郎氏採集・撮影)



昔の人が
使っていた
ものなんだね

10月から12月までの博物館普及行事 あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
野生生きものかんさつ	初めての植物かんさつ(秋編)	10月19日(日)	10:00~12:00	不要	一般 (15)	
	バッタ採りをしよう!	11月 2日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般 (20)	現地集合
ミクロの世界	スンプでかんたん顕微鏡かんさつ	10月 5日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般 (40)	
	電子顕微鏡で化石を見よう!	11月 9日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般 (20)	
	電子顕微鏡で昆虫を見よう!①	12月 7日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般 (10)	
みどりの工作隊	ドングリとウツギの笛を鳴らそう	10月19日(日)	13:00~15:00	要	小学生から一般 (30)	
	リースをつくろう	12月 7日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般 (30)	
たのしい地学体験教室	立体視にチャレンジ!	10月12日(日)	13:30~15:00	要	小学4年生以上 (20)	
	白亜紀の地層見学 [勝浦町]	10月19日(日)	12:00~16:00	要	小学生から一般 (25)	現地集合
	木の葉化石の発掘体験	11月30日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般 (25)	材料費100円(大学生一般)
ワクワクむかし体験	土器作り①成形	10月12日(日)	13:30~16:00	要	小学生から一般 (30)	材料費300円(大学生一般)
	土器作り②野焼き	11月16日(日)	10:30~15:00	要	小学生から一般 (30)	①・②セット
企画展関連行事	遍路道☆花ウォーキング [川島・阿波]	10月26日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般 (20)	現地集合
	企画展「空海の足音 四国へんろ展」展示解説	10月26日(日)他※	13:30~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	へんろ学入門セミナー(第1回)	11月 1日(土)	13:30~15:00	要	小学生から一般 (50)	講師 真鍋俊照氏 (四国大学教授)
	へんろ学入門セミナー(第2回)	11月 8日(土)	13:30~15:00	要	小学生から一般 (50)	講師 須藤茂樹氏 (四国大学准教授)
	地蔵峠[眉山]の遍路道を歩こう	11月23日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般 (20)	現地集合
部門展示関連行事	部門展示「四国南東部の地形と地質」展示解説	10月26日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	部門展示「徳島水平社創立90周年記念展」展示解説	12月21日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
博物館スペシャル	文化の森大秋祭り!!	11月 3日(月)	9:30~16:00	不要	幼児から一般	

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。

※ 11月2日(日)、3日(月)、9日(日)、16日(日)、23日(日)、24日(月)

普及行事のお申し込みについて

- ◎ 1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
- ◎ 行事日の **1カ月前から10日前**までに、必着で右記までお申し込みください。
- ◎ 返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入してください。
- ◎ 希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
- ◎ 原則として、参加費は無料です。

往復はがきの記入例

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
52 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	52 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の 行事名 2. 参加希望者 全員名(学年) 3. 住所 4. 電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館へ(電話 088-668-3636)

博物館友の会に入会しませんか!

- 博物館友の会は、さまざまな活動を通して自然や文化に親しむとともに、会員相互の交流をはかっています。
- 2014年度も楽しい行事が予定されています。
- みなさんも参加してみませんか?

■ 半年会費・個人会員 1,000円・家族会員 1,500円

会員の特典

- 年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
- 友の会の楽しい行事に参加できます。
- 友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。
- 催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。

◆ 2014年度9月以降の行事予定

友の会会員だけの行事です。会員になればどの行事にも自由に参加できます。

- 9月28日(日) 板野周辺を歩こう(板野町内)
- 10月18日(土) 秋の山を歩こう(佐那河内村旭ヶ丸)
- 11月 8日(土) 化石を探そう(高知県安田町唐浜^{とうのはま})
- 11月15日(土) 京都日帰り研修(京都市内)
- 12月14日(日) リースを作ろう(博物館実習室)
- 1月~3月を予定 こんにやく作り(博物館実習室)
- 2月を予定 おおしまみ^{おおしまみ} 大敷網体験(海陽町鞆浦漁協^{とまうら})

詳しくは、友の会事務局まで(電話 088-668-3636)